

低密度植栽試験地調査（成長量・生存率）2年目調査結果

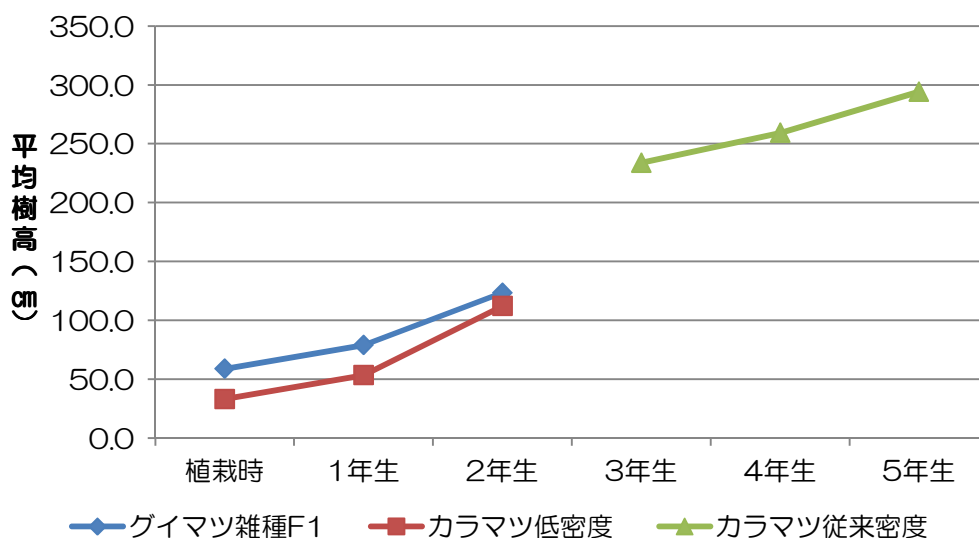
1 成長量について

2016年10月に実施した調査において、低密度植栽試験地及び対照地における平均樹高（健全木：食害等を受けていない個体）は下表及び下図の通りとなった。

単位：cm

	植栽時	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生
20-39	58.8	78.9	123.3			
20-42	33.0	53.3	112.1			
対照地				234	254	294

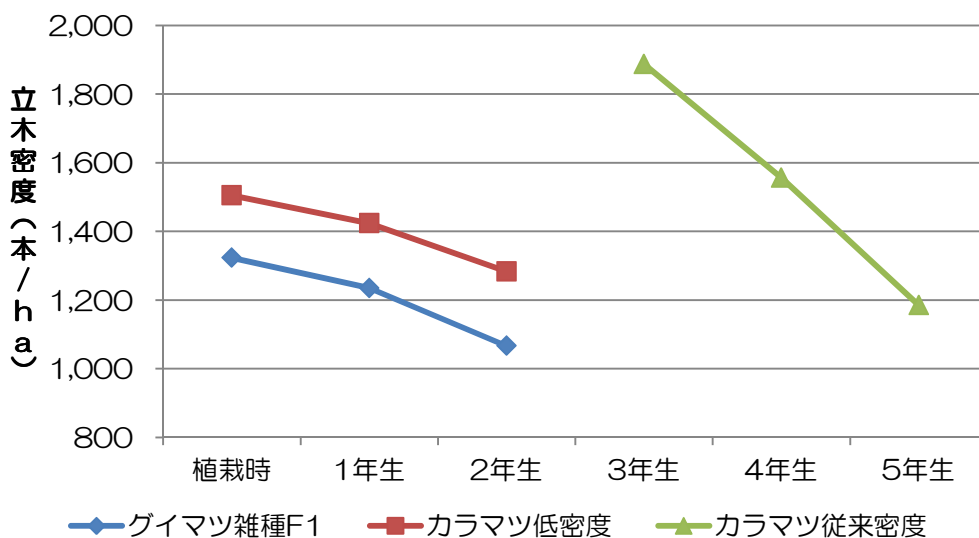
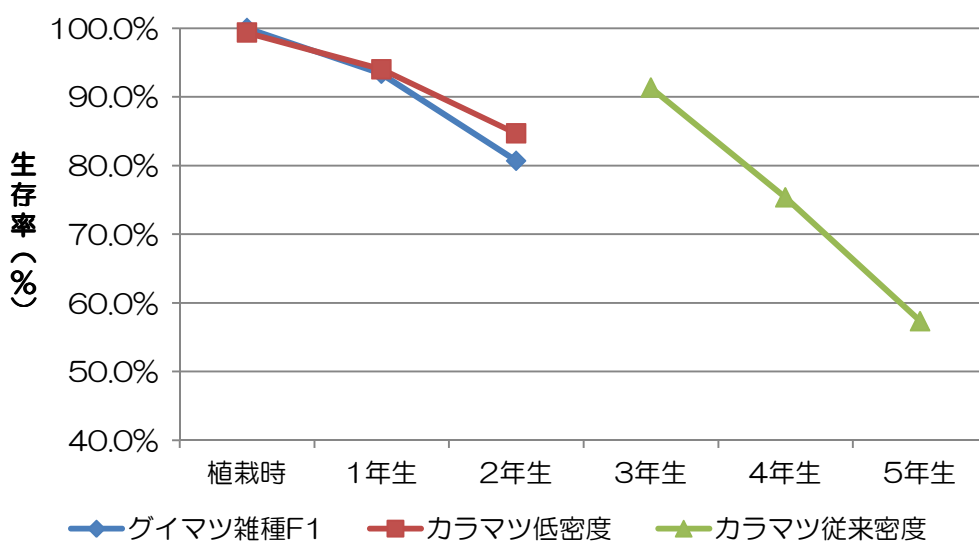
注) 対照地のうち4年生、5年生は2つの小班の平均値



健全木の平均樹高成長量はグイマツ雑種 F1 が昨年秋と比較して 44.4cm、カラマツ低密度植栽地は昨年秋と比較して 58.8cm となっており、カラマツと比較してグイマツ雑種 F1 の成長量は小さかった。また、健全木の比率はグイマツ雑種 F1 が 76.7%、カラマツが 82.7% となり、1 年生秋の時点（グイマツ雑種 F1：84.7%、カラマツ：86%）と比較してグイマツ雑種 F1 とカラマツの健全木割合の差が広がった。これは、グイマツ雑種 F1 は筋刈、カラマツは全刈による下刈を実施しており、置き幅にある下層植生との競争による影響が考えられた。

2 生存率について

低密度植栽試験地及び対照地における生存率及び立木密度(本/ha)は下図の通りとなった。試験地における生存率はグイマツ雑種F1が80.7%、カラマツが84.7%となっており、従来密度(2,066本/ha)で植栽したカラマツの3年生に比べて低くなっている。立木密度で換算すると、グイマツ雑種F1は対照地の5年生における密度と比較しても低くなっており、注視する必要がある。



3 2年目調査終了時点のまとめ

低密度植栽試験地において、成長量は昨年の秋時点と比較して大きく成長している。しかし、生存率および健全木割合は対照地と比較して低くなっており、来年度以降についても定着状況を注視する必要がある。